

東京薬科大学新聞部
東京都新宿区本町二の六〇〇
電話(37)二二二一
代表人 酒家 昭
電話(82)四〇〇四
代表人 佐藤 登志子
新入生特集号本号臨時小版

永松元一先生御逝去
男子部長 永松元一先生御逝去



故永松元一教授

三月十六日 脳溢血が再発され
大学葬・盛儀の裡に挙行
★本学男子部長永松元一教授は、去る三月九日、脳溢血を再発されて以来青森市の養病院にて御療
★養中であつたが、其日の効な三月十六日(金)午前三時五分同病院において御逝去された。享年六十
★一歳。なお十六日午後七時より故先生御自宅において近親者のみによお通夜が行なわれた。
★本学では故永松元一教授の多年の功勞に報いて大学葬として、三月二十五日午後一時より柏木校旧講
★堂において儀式で盛儀の裡に行なわれた。
★大葬は二月長村山義温氏、東薬会々長可から生前故先生と特に御關係の講義を担当されておられた先生は
★二月二十五日、遺囑一氏、本学女子部長長寺正正あつた方々約百名が参列された。この間、願調に出動されておられた
★午後一時より信氏の三氏が御遺骨を各々参列された。この間、願調に出動されておられた先生は
★二時より、本学理事長、面から贈られた生花、花環にかさび多数生が焼香をすませ、故先生と御關係の講義を担当されておられた先生は
★長野沢清人られた本学旧講堂の正面中央祭壇に安置された。式場には御遺族、
★員長、本学 御親戚一同約六十名、及び本学側
★氏が御遺族に安置された。式場には御遺族、
★員長、本学 御親戚一同約六十名、及び本学側

論説
新学期に思う

四月はやはり三月のあとにやつ中で常に薬科大学の先達として発
て来る。物とは定つて居る。そ展して来た本学も新制に学に昇格
の例にもれず論説も新学期的言葉を
をのべるのである。
行なわれている東薬祭(薬学祭)
我々は正月に新年の挨拶をする
は入学して間もない新入生諸君に
様にはなく、勝利者としての新
入生諸君に対して入学出来て、本
容の紹介を兼ねた、対外的に日常
当に居つた。と心からおめでとう
う、とお慶び申し上げる次第であ
る。
四月は言うまでもなく新学期で
ある。陳腐で習慣的ではあるが、
世間の関心を理解することが出
来るのである。そのために新入生
諸君が進んでこの東薬祭に参加し
て、上級生先輩は教授との交流
を、行い東薬の空気になじまなけれ
ばならない。

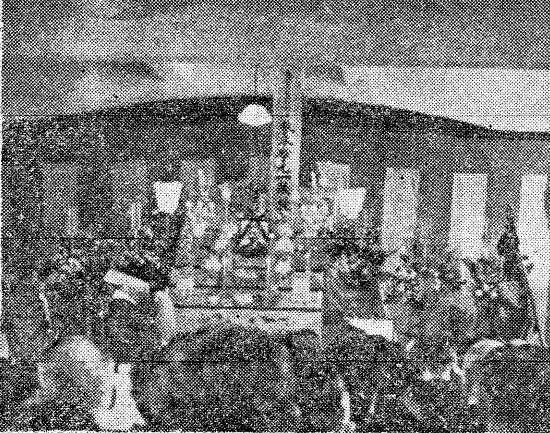
永松先生を悼む
村山義温

わが永松先生は学生には近頃
き易い教師で卒業生には好伴侶
であつたと思はれる。今この好
個の先生を失つたことは誠に痛
惜にたえない。
故人の生前への供物は生前に
の酒盛であつた丁度誰かの狂言
一番好まれたものを遺言に
酒の話と掲げて
追憶の文とす
第一の思い出は三、四年前共
に山形市の東薬会に出席したた
の語である。夜行で早朝着時
ら宿のテールに備置された三本
先生を迎へて居た。私は下宿
会での感想である。隣に居る
勿論酒は御茶であつたので先
生の独占であつたことは勿論
駅にて下車しかけたところ、急
に手足が動かなくなつた。丁度
ばこの様子を見ていた職員が異
常を感じて次の吉祥寺駅にて先
生を助け下りさせ、同駅前交番
を巡査と相談して吉祥寺の養病院
に入院させられたが、手当の甲斐
なく、三月十六日(金)午前三時
五分同病院にて逝去された。

本学奉職三十余年

故永松元一先生は正十二年東京
にわたつて本学を教職をとられ
が二十三年に全快し同年四月、
薬学専門学校に御就任以来大学
り出勤、男子部四年生の裁判化
格後の今日まで三十余年の永
にわたつて本学を教職をとられ
が二十三年に全快し同年四月、
薬学専門学校に御就任以来大学
り出勤、男子部四年生の裁判化
格後の今日まで三十余年の永

大学葬の様相



男子部 女子部
一年 角倉 一 中山 久
二年 鈴木美智雄 徳部 忠雄
三年 太田 謙男 三橋 靖
四年 石渡 三郎 加藤 鉄三

女子部学生会
正副会長決定

女子部学生会、副会長の信
任投票は一時で講堂において行
われた総投票者六〇〇名、会長
候補の角田紀子さんが四五四票
の信任票をもつて会長に決定、副
会長の飯塚節子さんは四二三票
和田秋枝さんは四五三票、それ
ぞれ信任票をもつて決定した。投
票率は三年が非常によく、九四・
〇、次いで二年、一年、四年の順で

校章
解 説

故下山校長が独乙留學
中独立薬科大学の撰語
図案で同校長に贈られ
たものを採用して校章
としたもので、
ラテン語の
FLORE
PHARMACIENI
華英併記の頭文字で
P・P・Hを組合せ図案
化するものである。

東薬祭学術祭日程

男子部長永松元一先生の御逝去に慎んで哀悼の意を
表します。
新入生の諸君、入学おめでとうございませう。今後の御
健闘をお祈りいたします。
新聞部では新学年にあたり部員を募集しています。学
年、経緯等一切問いません。入部希望者は学年氏名を
記入のうえ当部投票箱にお入れ下さい。
今回の本紙はタブロイド版二頁でしたが、次号は学術
祭特集号として大版四頁発行を予定しています。特に
学芸方面に紙面をさきたいと思ひますので、隨筆、評
論、研究発表等をお寄せ下さい。直接当部員に提出
下さるが、当部投票箱を御利用下さい。締切五月二日
東京薬科大学新聞部

